

さまざまな経験やそのときどきの想いを糧に築きあげて昨日より今日
今日より明日の人生を充実させている
GOMAさんの生き方を紹介します。

「人生は1回、楽しく生きたい」 アートで世界一を目指し奮闘中

GOMAさん
(平川市)



【Profile】弘前市出身。3年ほどの保育士勤務を経て、秋田公立美術工芸短期大学へ入学。卒業後、本格的にアート活動を開始。2015年の「JAPAN EXPO PARIS」に出演後、地元に戻り株式会社GOMA LABOを設立。

アート表現が動かした人生

アーティスト、アートディレクターとして活躍中のGOMAさん。細かい線でダイナミックな独特な世界観の絵を描き始めたのは、高校生の頃でした。しかし当時はアーティストになりたいと思うことはなく、子どもが好きだったことから、保育士の資格がとれる東北女子短期大学に進学しました。就職に活かすことを考えてのことでしたが、当時は男性保育士の採用は少なく、卒業後はアルバイトをして過ごした時期もありました。「そのうち縁があつて、保育園に勤めることができましたが、その間に美大に行きたいと思うようになって」。アルバイト時代も保育士として働いていたときも、趣味として絵の依頼を受けるたびに「絵を仕事にできるかもしれない。それなら専門知識があつたほうがいい」と思うようになり、「若いうちに一度絵の勉強をしておこう」と秋田公立美術工芸短期大学へ入学。これが、アーティストとしての人生の第一歩となりました。

苦境を経て、トップアーティストへ

「実際に絵の世界に足を踏み入れてみたら、仕事がすぐにきたんです」。全国各地から世界まで飛び回る、忙しい日々を過ごしました。「学校に行けない日が多かったですし、先生にはインスピレーションのようなもので描いているのだから学ぶなとも言われて。だから、結局専門知識はあまり学んでいないんです」。応援してくれる先生に支えられながらの充実した学校生活。終わりを迎えると、すぐに本格的なアーティストとして、活動を開始しました。

「卒業してすぐは、全然売れなかつたんです。順調だった美大時代とは一転して、美大生という肩書がなくなつたGOMAさんは、売れるまでの間苦労したと話します。光熱費も十分に払えない日々を2、3年ほど過ごしたあるとき、GOMAさんに転機が訪れます。

「その頃、私の絵を見てくれた方の縁で『JAPAN EXPO PARIS』に招待されたんです。アーティストとしてライブアートをを行うと、無名のアーティストだ、クレイジーマスターだと話題になって。あれが、知名度が上がつたきっかけですね。帰国すると多くのメディアに取材され、一躍有名人になりました。それは、2015年の出来事で、当時GOMAさんは29歳でした。

その後活動基盤を地元で整えるためにUTAイン、株式会社GOMA LABOを設立しました。「30歳までに売れなければやめようと思つていたんです。きっかけをつかむことができ、よかつた」。その後も、人との出会いをチャンスに変えて、才能を発揮していきます。2017年には、「HIROSAKI APPLE DESIGN AWARD」で準グランプリ&審査員特別賞を受賞。2018年には国連宇宙週間にて展示会「MOON」を開催しました。

GOMAさんは、「お金持ちではなく有名になりたい」という信念で活動してきたといいます。苦しい時期も自らチャンスを作り、手にしたチャンスは確実にものにしてきました。「きた仕事は断りません。何でもやります。それがよかつたのかなと思います」。

世界一の夢と子どもたちへの想い

現在34歳。GOMAさんの夢は世界一のアーティスト。「活動を始めるときから、世界一になると決めていました。2017年の受賞で世界2位をとつたから、あとは1位だけ」。今はその夢をかなえるため、突き進んでいるといいます。絵の練習や、インスピレーションを得るための活動を休むことなく続けながら、青森県内でさまざまな作品を生み出しています。

もうひとつ、GOMAさんの強い想いを感じるライフワークともいえる活動として、保育園や特別支援学校でのボランティアワークショップがあります。保育士の経験、さらにGOMAさんはADHD(注意力欠陥多動性障害)と、文字が読みにくい学習障害を持つていてということも、活動のきっかけのひとつです。「重度の障害があると、将来の人生が決まってしまう。でも、もっと違う人生があつてもいいと思います。絵を教えたら、もしかしたら絵が描けるようになるかもしれない。保育園に関しては、アートの特化した園があつてもいいと思つています」。さまざまな経験や立場から、障害があつてもなくても、未来を担う子どもたちに、有名になつて得たお金を使いたいと考えています。「人生は1回きりだし、人はいつ死ぬかわからない。死ぬときに最高の人生だつたと思つて死にたい。だったら楽しい人生を送ろうよと思つてやっています」。GOMAさんの活動には、そんな生き方そのものが表れているかのよう。まだまだ活躍は続きます。

(取材：井藤 雪香)

